

自然環境保護・保全事業

セブン-イレブンみどりの基金は、日本の四季折々の美しい自然や貴重な生態系を次世代に受け継いでいくために、さまざまな団体とパートナーシップを組み、自然環境の保護・保全活動を推進しています。

北海道の支笏湖周辺

台風災害・復興の森づくり

「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」は、2004年の台風被害に遭った北海道の支笏湖周辺の森林再生のために、100haの大地に10万本の植樹を行う森づくりです。2006年の秋植樹には、63団体、延べ1,800人が参加し、官民一体となり50haに5万本の植樹を行いました。森づくりを行うため、セブン-イレブンみどりの基金は、北海道森林管理局・石狩森林管理署と協定を結び、地域の人たちの協力を得て実行委員会を設立し、活動を行っています。また、北海道内のセブン-イレブン店舗では、募金活動や告知活動を行いました。



支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり

富士山地域保全活動

セブン-イレブンみどりの基金は、富士山地域の環境問題を解決するため、NPO法人富士山クラブの活動を支援しています。今年度の清掃活動は60回、延べ5千人が参加し、約81tのごみを回収しました。新たに富士山の南面の巨樹・巨木調査や2月23日の「富士山の日フォーラム」の開催を支援しました。



富士山清掃

霧多布湿原保全運動

認定NPO法人霧多布湿原トラストとパートナーシップ協定を結び、北海道の霧多布湿原の保全活動を行っています。今年度は約15haの民有地の取得を支援し、この5年間に当基金の支援で買い上げ保全した湿原の面積は約199haとなりました。同団体がこれまでに取得した総面積約339haは、市民団体のトラストとしては日本最大となっています。



霧多布湿原

一学一山運動

現在全国28の大学が賛同して活動している、一つの大学が一つの地域の自然環境を守り後世に受け継いでいく「一学一山運動」を推進するために、当基金では早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターと協定を結び、活動を支援しています。10月の第1回フォーラムでは、各大学の教授や学生による活動報告や意見交換を行い、実際に山の道づくり作業を体験するために「高尾の森づくりプロジェクト」の現場視察を行いました。

九重ふるさと自然学校開校準備

2007年春の開校に向け、「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を基本理念とした自然学校の開校準備を行っています。自然学校は、当基金の自然

と生態系の保護保全活動の拠点として、阿蘇くじゅうの自然と里地里山の自然・生態系の保護保全活動や他の自然保護団体とのネットワークなどを行っていく予定です。今年度は開校に向けたプログラムの開発やその試行を行いました。



タデ原湿原